



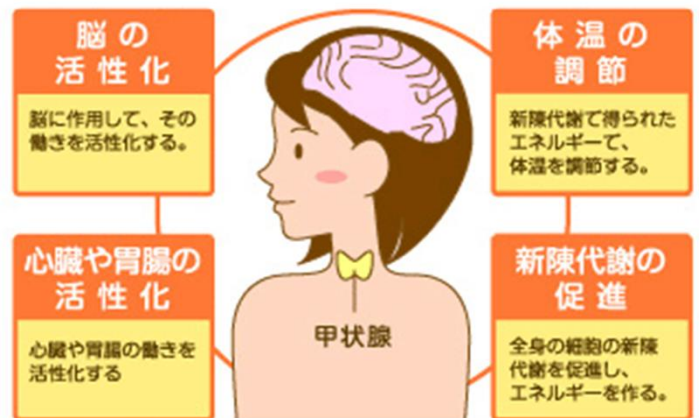
## 甲状腺

### ★甲状腺の働き

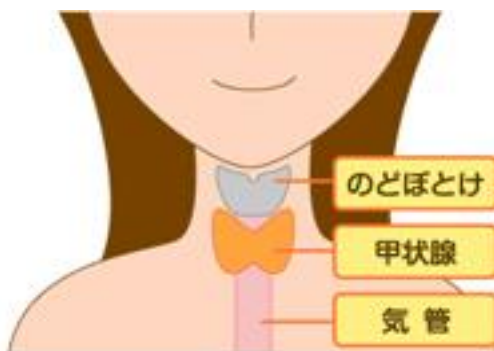
甲状腺は、食べ物に含まれるヨウ素を材料にして甲状腺ホルモンを作り、血液中に分泌するところです。甲状腺ホルモンには、体の発育を促進し、新陳代謝を盛んにする働きがあります。つまり、活動するために必要なエネルギーを作り、快適な生活を送るために必要不可欠なホルモンです。

甲状腺ホルモンは多すぎても少なすぎても体調が悪くなってしまいます。

### 甲状腺ホルモンの働き



### ★甲状腺の解剖



甲状腺は首の前側、のどぼとけのすぐ下にあります。蝶が羽を広げたような形で気管を包み込むようにあり、縦4cm、厚さ1cm、重さ15gくらいの小さな臓器です。正常の甲状腺は柔らかいので、外から触ってもわかりませんが、腫れてくると手で触ることができ、首を見ただけで腫れているのがわかります。

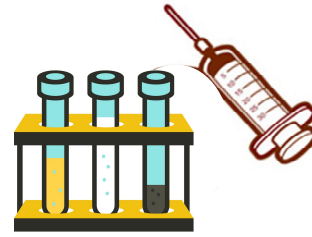
### ★甲状腺ホルモンのコントロール

甲状腺ホルモンを調節するために脳（下垂体）から送られる伝令が甲状腺刺激ホルモンです。甲状腺刺激ホルモンは血液中の甲状腺ホルモンのほんの少しの変動も敏感にキャッチして、甲状腺ホルモンの量を一定に保つように指示しています。

甲状腺機能は、血液検査で甲状腺ホルモンの量、甲状腺刺激ホルモンの量を測定することで調べることができます。甲状腺刺激ホルモンは血液中の甲状腺ホルモンのほんの少しの変動も敏感にキャッチして、甲状腺ホルモンの量を一定に保つよう指示しています。

## ★甲状腺の検査

- 甲状腺刺激ホルモン（TSH）
- 甲状腺ホルモン  
（トリヨードサイロニン[T<sub>3</sub>]、サイロキシシン[T<sub>4</sub>]または遊離型ホルモンのFT<sub>3</sub>、FT<sub>4</sub>）
- 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（TPOAb）
- 抗サイログロブリン抗体（TgAb）
- 抗TSH受容体抗体（TRAb、TBII）
- サイログロブリン（Tg）
- 超音波検査
- ヨード摂取率検査



## ★甲状腺の異常

甲状腺の異常は、おもに3つに分けられます。

- ①甲状腺ホルモンが多い状態（バセドウ病など）
- ②甲状腺ホルモンが少ない状態（橋本病など）
- ③甲状腺に腫れもののできた状態（良性、悪性）

主な甲状腺疾患における甲状腺ホルモン値（FT<sub>4</sub>、FT<sub>3</sub>）と甲状腺刺激ホルモン値（TSH）との関係

		TSH	
		高値	低値
FT <sub>4</sub> FT <sub>3</sub>	高値	TSH産生腫瘍 甲状腺ホルモン不応症	バセドウ病 無痛性甲状腺炎 亜急性甲状腺炎 プランマー病
	低値	甲状腺機能低下症 （慢性甲状腺炎、橋本病、 先天性甲状腺機能低下症、甲状腺手術後、 アイソトープ治療後）	中枢性甲状腺機能低下症

## ★甲状腺ホルモンに異常がある場合の症状

4つ以上当てはまるものがあつたら、一度血液検査を考えましょう。



甲状腺機能亢進で現れる症状  
（甲状腺ホルモンが多い時）

- 疲れやすさやだるさがある
- 汗が異常に多い
- 暑がりである
- 脈拍数が多く、動悸がする
- 手足がふるえる
- 甲状腺が腫れる
- 食欲が旺盛である
- イライラする
- かゆみがある
- 口が渇く
- 眠れない
- 微熱が続く
- 息切れがする
- 髪の毛が抜ける
- 排便の回数が増える
- 眼球が出てくる

甲状腺機能低下で現れる症状  
（甲状腺ホルモンが少ない時）

- 疲れやすさやだるさがある
- 汗が少ない
- 寒がりである
- 脈拍数が少ない
- むくむ（顔、全身）
- 甲状腺が腫れる
- 体重が増える
- 気力がない
- 皮膚が乾燥する
- 声がかれる
- 眠たい
- 物忘れしやすい
- 動作が鈍い
- 髪の毛が抜ける
- 便秘
- 筋力が低下する

